

ことわざ いくつわかるかな ①

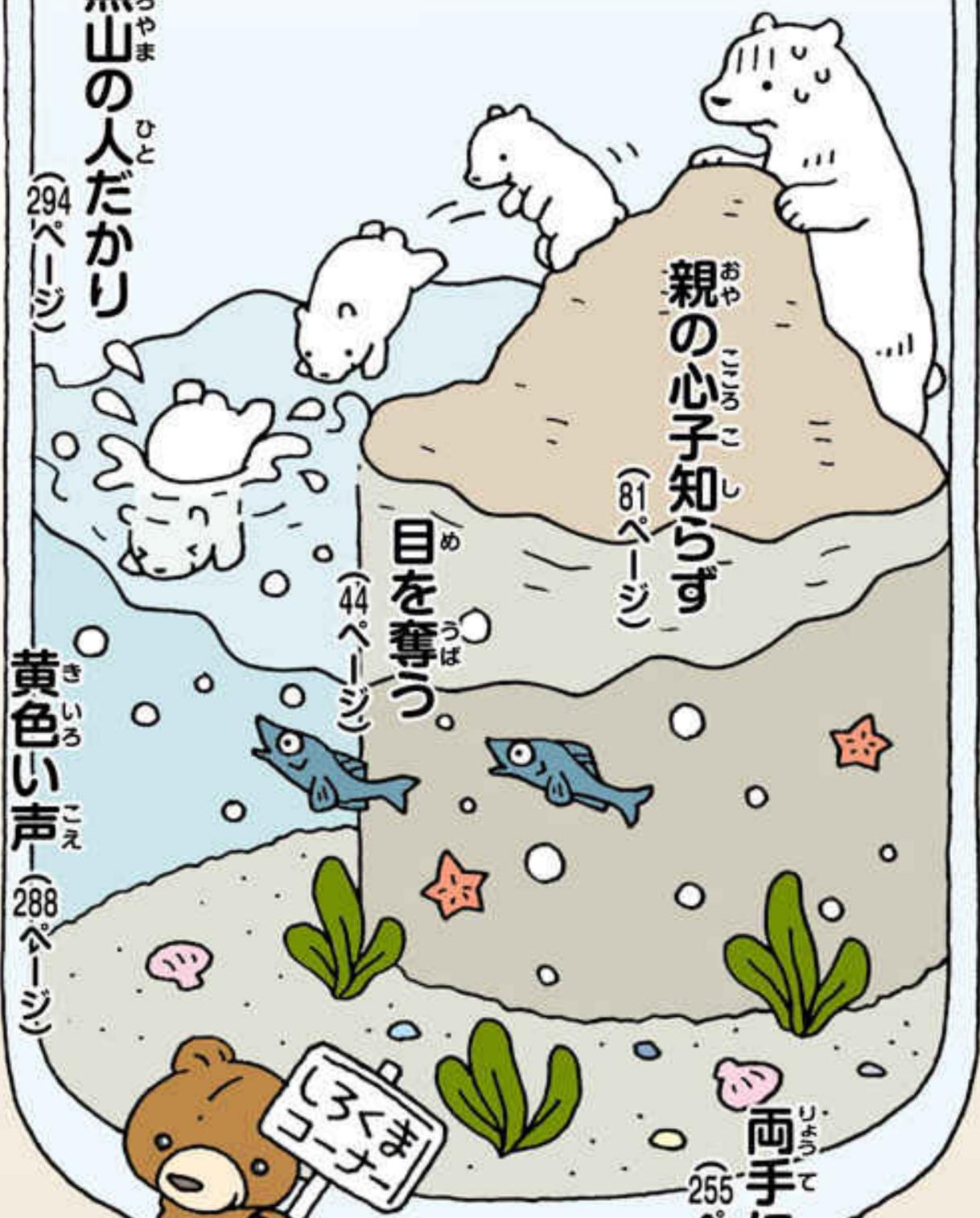


黒山くろやまの人ひとばかり
(294ページ)

黄色きいろい声こえ
(288ページ)



目めを丸まるくする
(48ページ)



親おやの心こころ子こ知しららず
(81ページ)

目めを奪うばつ
(44ページ)

両手りょうてに花はな
(255ページ)

芋いもを洗あらうつ
(148ページ)





鷹とびに油揚げあぶらあげ

(194ページ)



火ひの付ついたよう

(243ページ)



猿さるも木きから

落おちる (172ページ)



鳩はとが豆鉄砲まめてっぽうを食くったよう

(203ページ)



猿さる真似まね

(174ページ)



鳥かじりの行水まひ

(199ページ)



狸たぬき寝入ねい

(178ページ)



心こころが弾はむ (101ページ)



虎とらの子こ

(183ページ)



舌鼓したつづみを打うつ

(57ページ)



目めを細ほそめる (47ページ)

息^{いき}が合う^あ

- つかいかた** 歌い手と伴奏の息^{いき}が合^あい、すばらしい演奏^{えんそう}だ。
- いみ** たがいの調子^{ちようし}や気持ち^{きもち}がうまく合^あう。
- さんこう** 「息^{いき}」は、調子^{ちようし}。気分^{きぶん}。
- にたいみのことば** 呼吸^{こきゅう}が合^あう

息^{いき}を殺^{ころ}す

- つかいかた** 野鳥^{やちよう}の写^{しゃ}真^{しん}をとろうと、草むらでカメ^かメ^まラを構^かえ
- いみ** 呼吸^{こきゅう}をおさえて、静^{しず}かにしている。
- さんこう** 「殺^{ころ}す」は、活^{かつ}動^{どう}や動^{どう}作^さをおさえると^いう意^い味^み。
- にたいみのことば** 息^{いき}を凝^こらさず、息^{いき}を詰^つめる





耳^{みみ}を澄^すます

- **ついかかた** 林^{はやし}の中^{なか}で、小鳥^{こどり}のさえずりに**耳^{みみ}を澄^すます**。
- **いみ** 注意^{ちゅうい}してよく聞^きこうとする。
- **さんこう** 「澄^すます」は、ものごとくに注意^{ちゅうい}を集中^{しゅうちゅう}すること。
- **にたいみのごとは** 耳^{みみ}を傾^{かたむ}ける ● 耳^{みみ}をそばだてる ● 聞^きき耳^{みみ}を立てる
- 耳^{みみ}を立てる

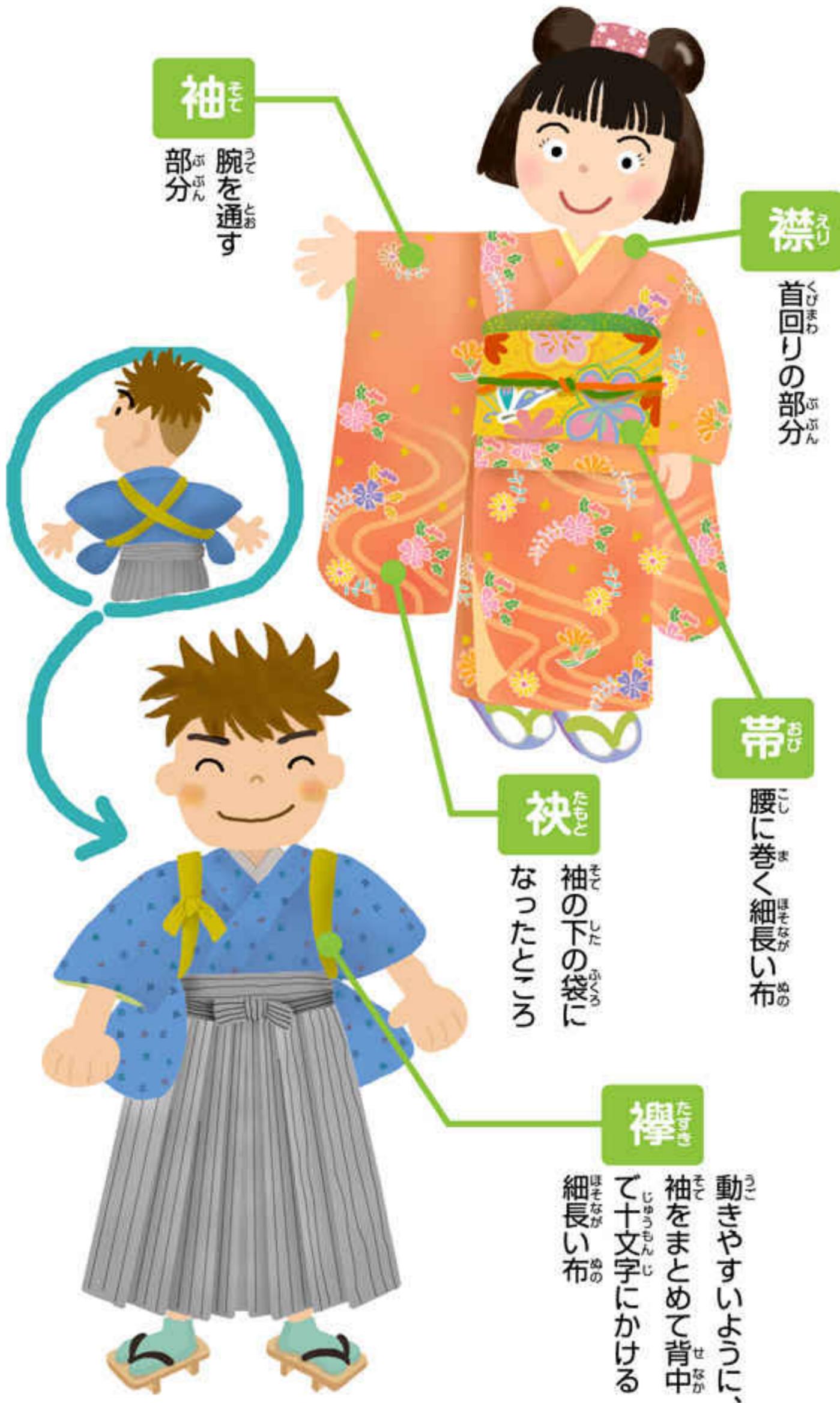


耳^{みみ}を貸^かす

- **ついかかた** どんなに「危^{あぶ}ないからやめなさい」と止^とめても、**耳^{みみ}を貸^かそうとしない**。
- **いみ** 人^{ひと}の話^{はなし}を聞^きく。また、人^{ひと}の相談^{そうだん}に乗^のったりたのみごとを聞^きいたりする。



着物きものにかんけい関係するあじとばば



3
くらし



 そで袖しほを絞しぼる…袖そでがびしよびしよになるほど、ひどく涙なみだを流ながす。

襟を正す

つかいかた 先生からの忠告を襟を正して聞く。

いみ 服装や姿勢をきちんとして、まじめな気持ちでものごとを行う。襟をきちんと直すことから。

袖振り合うも多生の縁

つかいかた 袖振り合うも多生の縁、どうぞこのお金を役立てて。

いみ 知らない人と道で袖をふれ合うようなちよつとしたことでも、偶然のことではなくすべて前世からのめぐり合わせだということ。

さんこう 「多生の縁」は、前世(この世に生まれる前に生きた世)からの因縁。「袖すり合うも多生の縁」ともいう。「多生」は「他生」とも書く。

袖にする

つかいかた 恋人を袖にする。

いみ 親しい相手を冷たくあしらう。

さんこう 手を袖に入れたまま、外に出さないという意味。

無い袖は振れない

つかいかた お金をなんとかしてあげたいが、無い袖は振れない。

いみ なんとかしたいと思っても、実際に無ければどうすることもできないということ。

さんこう 袖の無い着物では、袖を振ることができないという意味。

袂を分かち

つかいかた 長年の友と袂を分かち別の道を歩む。

いみ 別れて別々の行動をする。縁を切る。いっしょに行動してきた人と別れる。

帯に短し褌に長し

つかいかた このバッグは帯に短し褌に長して、旅行用には小さいし、いつも持ち歩くには大きい。

いみ どつちつかずで、役に立たないようす。

さんこう 布の長さが、帯にしようとする短すぎるし、褌にすると長すぎるということ。



3

くらし



虎とらの尾おを踏ふむ

つかいかた 初心者しよしんしゃが雪山登山ゆきやまとざんなんて、**虎とらの尾おを踏ふむ**ようなものだ。

いみ 非常に危あぶないことをすること。

さんこう 「虎とらの尾おを踏ふむようにな」という意味いみ。



前門ぜんもんの虎とら、後門こうもんの狼おおかみ

つかいかた 前門ぜんもんの虎とら、後門こうもんの狼おおかみで、台風たいふうが去さったと思おもったたら、
今度こんどは火山かざんが噴火ふんかした。

いみ 一つの災難さいなんをやつと防ふせぐと、すぐ別の災難さいなんにあうこと。

さんこう 表おもての門もんに虎とらがやつてきたので追おいはらうと、裏うらの門もんから狼おおかみが入はいろうとしているという意味いみ。

にたいみのいとは 一難いちなん去さってまた一難いちなん (↓301ページ)



虎とらの子こ

つかいかた

鑑かんを買かった。

いみ

さんこう

虎とらの子このお金かねをはたいて、ずっとほしかった植物しょくぶつ図

大切たいせつにとってあるお金かねや品物しなもの。とっておきの物もの。

虎とらは、自分じぶんの子こをととても大事だいじにすることから。



張はり子この虎とら

つかいかた

ん張はり子この虎とらや。

いみ

さんこう

強つよがって大声おおこえを出だしているけれど、あの人ひとはしよせ

弱よわいくせに強つよそうに見みせようとする人ひと。

「張はり子こ」は、木きの型かたに紙かみを張はり重ねかさて作つくったもの。

虎とらは虎とらでも、張はり子この虎とらでは、ちっともこわくないことから。



浅い川も深く渡れ

つかいかた

簡単そんな問題だけど油断は禁物だよ、

浅い川も

深く渡れ。

いみ

簡単そうで見えるからといって、決して油

断してはいけないということ。

さんこう

浅い川も深い川を渡るときのように、油断しない

で渡れという意味。

「浅い」を使うことば

● 底が浅い (内容に深みがない)

● 日が浅い (あまり日数がたっていない)

「深い」を使うことば

● 懐が深い (心が広く大きい)

● 読みが深い (先の先まで深く見通している)

● 深い川は静かに流れる (実力のある人は、むやみにさわぐことはない)



待^まてば海^{かい}路^ろの日^ひ和^わあり



つかいかた いい返事^{へんじ}が、なかなかもらえなくてもあせるな、

待^まてば海^{かい}路^ろの日^ひ和^わあり。



い^いみ 今^{いま}はうまくいかななくても、じっと待^まっていれば、必^{かなら}ず

い^いときが来^くるとい^いうこと。



「日^ひ和^わ」は、晴^はれたおだやかな天^{てん}気^き。今^{いま}は天^{てん}気^きが

悪^{わる}くても、いつか必^{かなら}ず船^{ふね}旅^{たび}（海^{かい}路^ろ）にふさわしい日^ひが来^くるとい

う意^い味^み。



「待^まつ」を使^{つか}うとば

- 果^か報^{ほう}は寝^ねて待^まて（幸^{さい}運^{うん}はあせらずに待^まっていれば、いつか自^し然^{ぜん}にやっ^くて来^くる）
- 歳^{さい}月^{げつ}人^{ひと}を待^またず（年^{ねん}月^{げつ}は人^{ひと}の気^き持^もちと関^{かん}係^{けい}なしに、ど^どんど^どん過^すぎ去^さっ^てしま^う）
- 人^{じん}事^じを尽^つくして天^{てん}命^{めい}を待^まつ（やれるこ^ことは全^{ぜん}部^ぶや^り尽^つくし、後^あは運^{うん}命^{めい}にま^かせる）
- 待^まち^に待^まった（長^{なが}い間^{かん}、待^まち続^{つづ}けていた）

